都名所圖會

後玄武再刻

都名所圖會卷之六目錄

後元武

下加茂　御手洗川　河合社　糺川原涼圖
蓁桑之宮　競馬圖　上加茂社　橋本社
岩本社　松ヶ崎　本涌寺　妙泉寺
御蓁薩池　地藏堂　幡枝圓通寺　市原小町寺　小町塔　少将塔
行遠土手　八塩岡　長谷八幡宮　朗詠谷
北岩倉大雲寺　智辨水　鞍馬寺　僧正谷
太良坊社　ふごゆるし　竹伐宮　貴船社　御船　龍王滝
暗部山　帆立石　大悲山　西加茂
靈源寺　神光院　正傳寺　送火鶴舟宮
藥師寺　麿ヶ峯　法義壇林　源光菴
岩門　光悦寺　千束　題目堂

菩提瀧　岩屋山　小野道風社　冠石
紫野大德寺　今宮社　やまとうひ寺　常盤前古跡
義經誕生水　舟岡山　雲林院　蓮臺寺
今宮御旅　金山天王寺　紅梅殿　七の社
清和院　立本寺　焔魔堂　釋迦堂
引接寺　轉法輪寺　七本松　芝居
北野天滿宮　内野遊女町　東向觀音　紅向松
大圓茶湯旧地　願成就寺　平野社　紙屋川
金閣寺　衣笠山　鏡石　等持院
芙容池　龍安寺 鶯鶯　真如寺　妙心寺
双岡　兼好古跡　法金剛院　西光菴
御室仁和寺　花盛圖　大内山　鳴滝妙光寺
印金堂　泉谷法藏寺　西壽寺　般若寺

三宝寺　五智如來　宅魔塚　平岡八幡宮
梅畑善妙寺　柵尾專山寺　槙尾西明寺　高雄神護寺
清瀧川　地藏院 紅葉名所

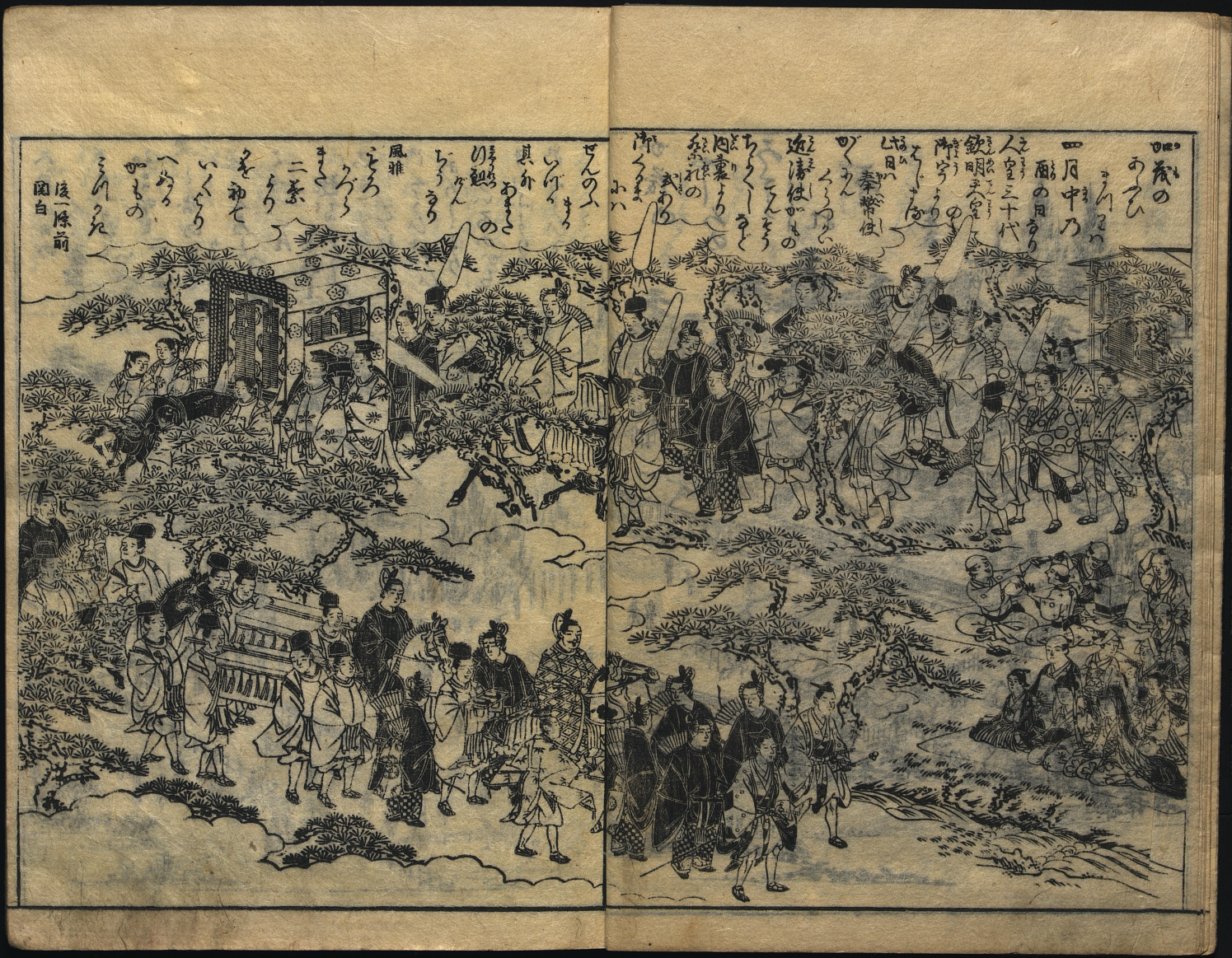


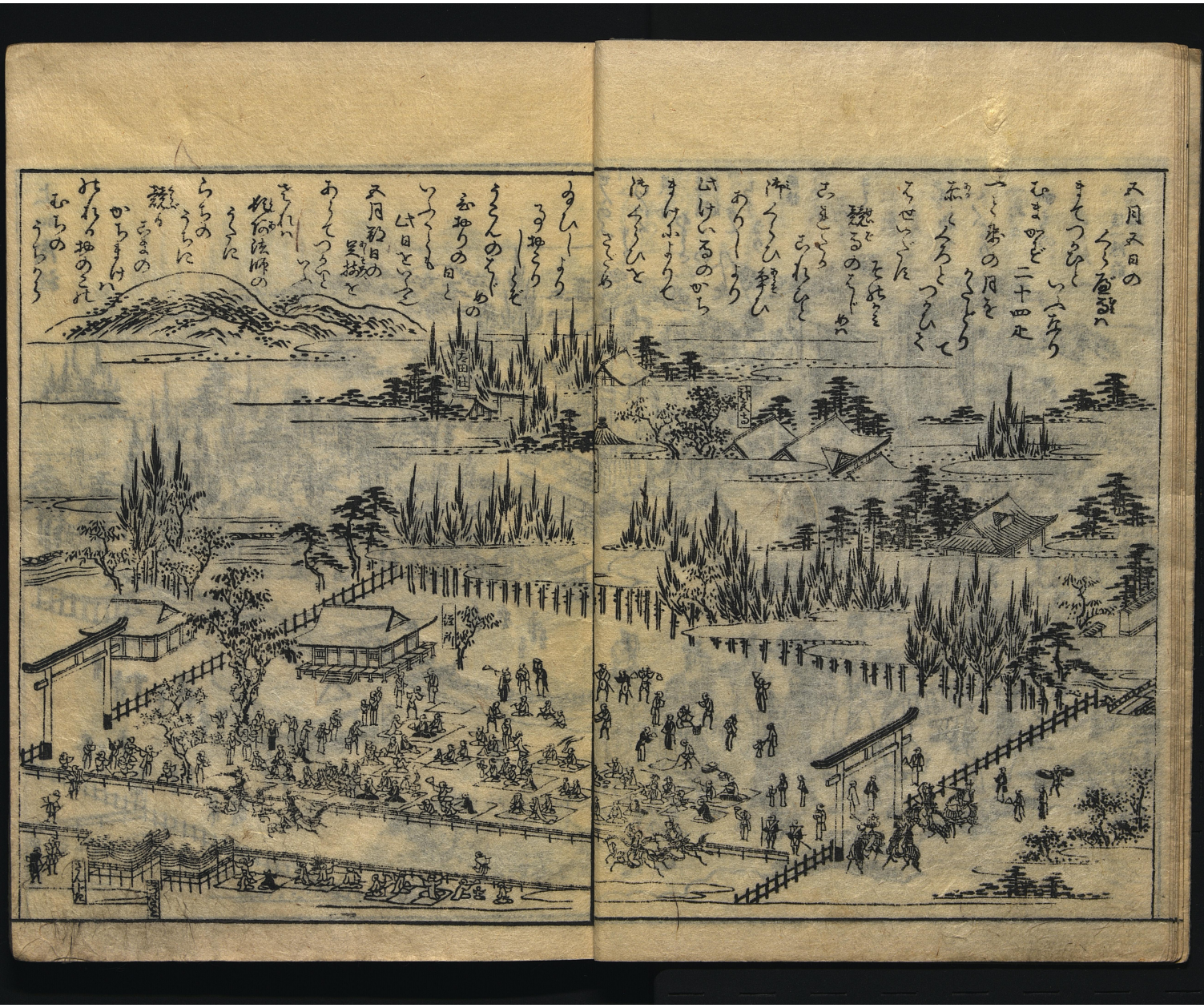
橘の小川を
淵手洗川の
一名にして
奈良社の
うしろ坂
流れて
細川と

新勅撰
風そよく
あしの
小川は
夕暮ハ
みそぎ
夏の
しるし
なりけり
家隆


下加茂の合社
末社
末社
末


下加茂御本社
きくたひふ
おむ
ちゝ
そ
そみ
まさる
が茂の
やしろの
みたらし
れ
夢
定家






上加茂社

鴨下上至吉神之御社天武天皇白鳳之御造営ニて下の社上社の神かゝ
健角命の御娘玉依姫ふくまゝゆゑある御ありさまの小冠のしるしおびの赤
丹塗の矢和くりのさゝ羽ゆゑ人にそ見えそめ給ふ
男ことわり給ふ神のさゝ給りけれ人一日里人さわぎ神の客給ひ一柱と四の男子
にあまた海が天にさゝへひせるに垂と虚空にかけうち祢しのそれ
天に昇りぬ人皇三十五代の天皇賀茂祢宜うり丹塗の矢大雷命うり
誉奉り卯月中の酉日飲明帝れ御宇に始る大内うり御車出さゝるゝ
猪るゝあひろ〳〵祝ひまつる楽を奏し具儀式常ニして吉森の
祝部ともうひろ祝ひなり

みあれ祭ふくしき社の司とのくあひとりけるにより

新古今

ふりあれし祢ふひのかりせは何ふ社とうけそもまし　加茂重保

又月次の祭るいあ〳〵大内裏武徳殿にいもく騎射すみ心倒こうとうや
細小弓始ありけ友達ふ来のお装束を着し左右ふ別ち揚真拒くそる場のた

あり足うり中そ落うるふ祢ふ社ふ六月十九日ふ晩日ふいえ祇社
とそ申ふ川ふ亀ふ法人性妻すふ晩日ふ上賀の祢ふおいそ猪ふあり

続古今

読みをりみそしのみの面うり祢ふくそ祇

ふ神いかゝ

ふりてそうふ人の着にえくとうり

日蔭ふ二葉ふ上賀祢後の東ふありて御生ふ社別名うり石川敷うふの
小川賀の祢川そゝいぬみそ〳〵川をうふうとうや

続古今

その代も我世もはゝ石川やせゝふ小川の絶ゝとふ人ハ

家集

陰雪ふみそ〳〵川ふ新ふえてそにそすあふうし深乃芳

定家

続後撰

さふおふり賀の祢川のそのよをふふえ〳〵世くのふりうさ

前大僧正

岩ふ橋ふの社ふ往右和ふの社二祢ふも業平實方の化現うるも云伝ハ

右紀ふいうゝま安の系ふ百ふ不易の祢うり東に厳祢ふり西う猛ふ祇
あ尾ぐ祢厳祢ふ賀ふ右ふ祢ふそうり猛ふ松尾の霊社そうり二祢の鎮護ふ
よりふく第代平安の福と崇るも云祢の威徳うるそ


松ヶ浦
本圀寺



松濤本涌寺は開基日生上人にして日蓮宗派なり天正年中に法華圓純の学室となる妙泉寺は日像上人に起る所にして同宗なり毎年七月十六日堂の中へ出て此里の老若男女うち交り頭目にふし故にけ聲ゆるしく柏子をり踊りて狂なり是なん松濤の題目おどりとて名に高し其夜うしろの山にはいくぬ法の二字を焼火に顕し聖人の會の送火とするなり

御菩薩池は幡枝の南にありて傍ひ地蔵堂なり平相國清盛の代西光法師がいとなみし此地蔵也りの其一なり

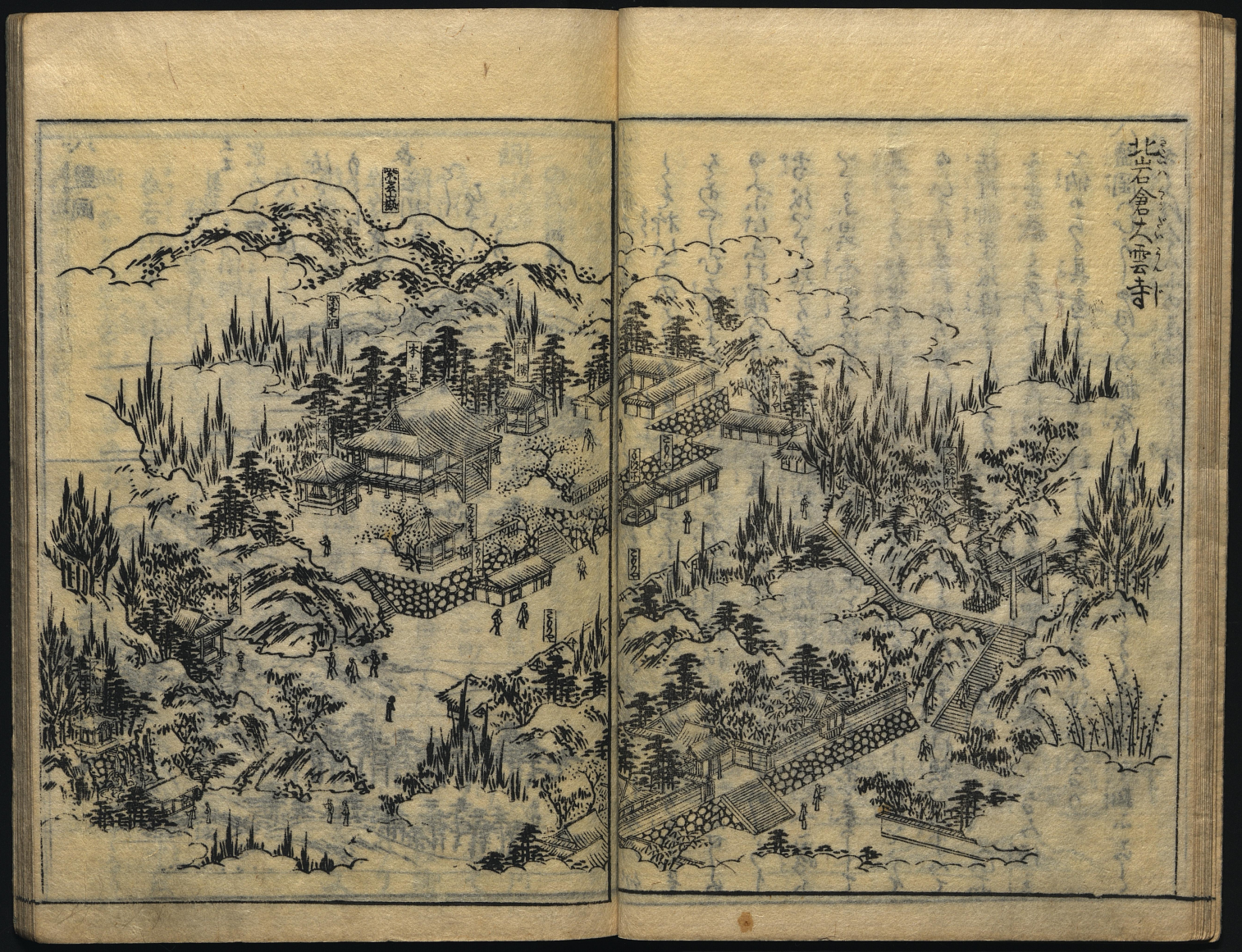
帝京の普陀洛寺はいにしへ清原源吉父の幽棲しなくなこと舊地に是なり丑寅のかたにて堂の谷といふ後白川上皇大原の女院を訪ひ給ひて此所に通り普陀洛寺に御幸のるあり（まゐ和給ふのせうり）庭に小野小町四位おねの墓ありなる人帝京整に通りしにとゝれ一むらせるなりけり

秋風の吹りにけてもなかめく小野にいくし薄れひなり　小野小町

市原小町寺



小宮藏大宮寺は天台宗にして本尊は聖観世音の立像なり行基乃作
とぞ抑此寺のはじめは王塚の小れ宮に紫宮のたなびく所あり京人皇
をあやしむ云によりて勅使として右近衛中将何某なれば見せしめ
ゆふ山に山の嶺なり勅使不思議に思ひゆふうち急行として四しらう
雪なりけれども尾現れ曰此地は本尊観世音降臨の霊地と又言時に
いたるに異香四方に薫じたる霊嶽あり是を窺ひ見れば音楽を奏して
其中より観世音の光明赫々たる御尊體なれば此地に休藍をうて
ゆひて行基の作りゆひし尊像なれば本尊とするに大宮寺の額は詔にて
佐理卿筆なれば染たまひしなり 今本堂に出る是と 開基は智慧僧正なり 僧釈書出し 人此所
を宮藏となげくるは詔あれば王城の四方に石藏といふなり経王
を納めらる其通りに石座明神ましゆれば是石藏の心なり
八鹽岡はむかしゆほくの楓茂りて秋のもの紅葉とかなり蜀錦を翻に出し
ならば今は小の尾崎に小しゆる


北岩倉大雲寺

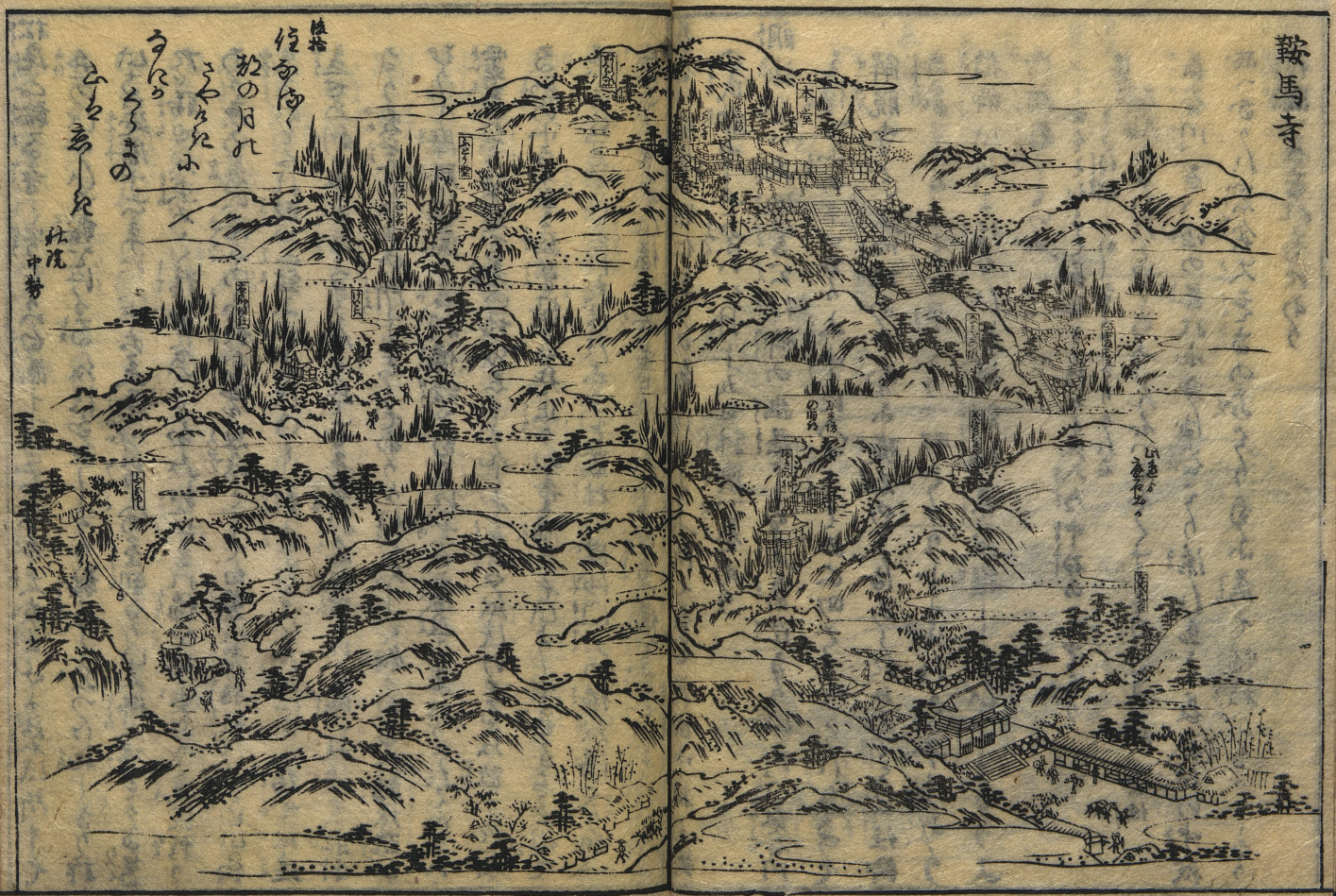


長谷八幡宮ハ惟仁親王の勧請しまゐ所之長谷花園中村之郷の氏神にして祭ハ八月十五日神輿一基あり

朗詠谷ハ大納言公任卿の幽居しまゐ舊跡なり此所ハ長谷川を倚て小のかゝる山中に入るまゝ大六町ばかりこれ我通て解脱寺といふ旧地あり今に礎石のこゝかしこに和ぬるく公任卿出家しまゐとぞ足なり一町ばかり小に至れば平地あり彼郷此所に住まひ和漢朗詠集我撰じまひしとなり又御所谷ともいふ

世をそむきて長谷り侍ける比入道中ねのをゆきなり
まこと住所しかしまゝ十とりければ

長谷川ハ八塩の邑れ小なる谷なり流れ出て長谷村の中我西へなかれ岩倉大雲寺の前なり南に落て幡枝にながれ花園ハ長谷れ南にあり


鞍馬寺
本堂

松尾と號する寺ゝ等ありく白風十一月天武帝大友王子よ謀叛の事顯はれ
死のしめして殺をけうる以ては如しうり殺るゝ名つけ初しうり作
山もの延暦十六年に大中臣朝臣清麻呂人の多劃うり山人佛ふ得とうる等
たゞ勝地ゞ求めゝ精舍ゞ如ゝ紀世者れ偏と安重せんとうに於り
あゝ夜の若い浩小の心紀ふ多の鬼務しして白髮れ老翁形しゝて白ゞ山ゞ
天下にをくれ形い二鉢ふくは〇り私雲なるびく海山あゝ精舍ゞ以建
立せの利益ゝ者うゝんゝ多ゝ手紀れ名以當して王城の鎮護の所ゝ於
うり者ゝて仰のまの所ゝもゝてありゝべゝしく鎭の白るに鎭以荘ひ
ひゝ摩騰法蘭ゝ舍利儀經ゝ白るに宗世表且ふ來れりさんゝ而るい
靈畜なり安定て者の地以ゝゝんゝて者ゝ以をけうる以放ゝに具
る紀の小ゝうゝ誌等ゝ中ふを止うれ童帰ゝてゝよゝ仕ゝて告るゝ支仕て
具ゝ以ゝんゝ者にたゞにゝをゝ叢林小毘沙門天の像以造ゝり刻一
宇をいゝうゝんゝは像以安置せりさゝしゝも紀者の像ゝ並ゝとゝて祈ひゝさ

こげうよゝゝそゝふゝ具ゝ衣の者に天者ありく曰汝多門天れ像以ゝく
親世者ゝ祈ゝ庶ゝ紀者ゝ多ゝ天れ名ゝ異ゝしゝも一所ゝり者ゝて後
預ひゝ人ゝ元りゝ勤衣せり又一宇以ゝうゝそゝよゝ紀者ゝ安重んゝ今
の西北紀者院ゝとうり二月初の寅の日法人拜奉ゝうゝ山毘沙天
十将の福をあゝんゝ人ゝ以ゝて貴人ゝりゝ人ゝ祈れ利隆小虎乃ふゝを
踏る等ゝ縁ゝようゝて山日ゝ来ゝうり 六月九日の午後ゝうゝ山西所ゝ指
人ゝ堂ゝ西の紀者堂ゝ集りて一大ゝうゝ者竹以双方ゝ二ゝを等
堂ゝ近ゝ方紀者ゝ者ゝ丹波方ゝる引ゝ一ふの院元法經ゝ供ゝ一ふ相
添れおゝを会せゝの分ゝを二段小ゝうゝて堂ゝを下り一の曲切石れりゝ足う
引せゝく走りゆく早ゝ勝とするゝ山来由ゝ性者ゝ者以招提ゝの鑑直信正
山ふゝ多入れゝた城郡の大地あゝくちゝた墻の傍ゝ正ゝくゝ人ゝ念
ありゝれゝ一つの地名小滅ゝり今一つふ白ひてゝくようゝして人ゝ慰ゝす
あゝく當ふれ用ゝるゝ絶ゝるゝまゝゝて放やゝまゝりそまとう



本堂れ小よある閼伽水滔々として涌出今にたゆる事ゆゑ行との
蛇ふるぞ人是紙きりて魔成拂ふなり扨又夜に入て黒紙を着し今や堂
れ中に産せしめ院流法力をん祈救し又祈活をるありかの俗人よりもて
毘沙門天此事紙告ゆへり後を止べき時ふも告ゆへ奇妙不思議のすこも
多かりを秘してかくて候

靱明神ハくらはの氏神にして大門のうちにあり恐れること諸大己貴命
一産なり朱雀院の御時天慶年中に勅請ある由本と号する事そへ子れ
御脳あるひハ世のさいがしたとき靱を此社にかけらるゝなり 例祭 九月九日

産石燒炭本芽漬ハ此所れ名産なり籠ゆろしうす様世に名なるし
高橋 庭たけくらまれ山のうに様々折枝折よりそうらふ 顯季

天本 足やこの者にさしはうす様くらまれ山にさけるなるべし 定和

袖中抄云 宮殊様ハ唐鞍れ宮殊に似たれハ鞍るの縁に云なりとそ

僧正谷ハ源年の乃先異人に遇會刺撃乃法さはくなり

六月廿日
鞍馬の竹伐

僧正谷にて
佗しらに
貝如く
僧よ
かんこ
為
其角




貴船社

貴布祢社 水神 園象女 祈る 文徳帝 諾尊 軻遇突智 きりそ 波止
其ゐくみと 高靈 しそやけき 垂迹や 千の丹生社 二社 祈る 坂
住の 降迹 みしく 今と 雨を 結ふ 祓止る 事を 祈る 水社 二神 祈る

社司ともきこゆ 糸 祭りて 奉らひせ はんぞふ ふる

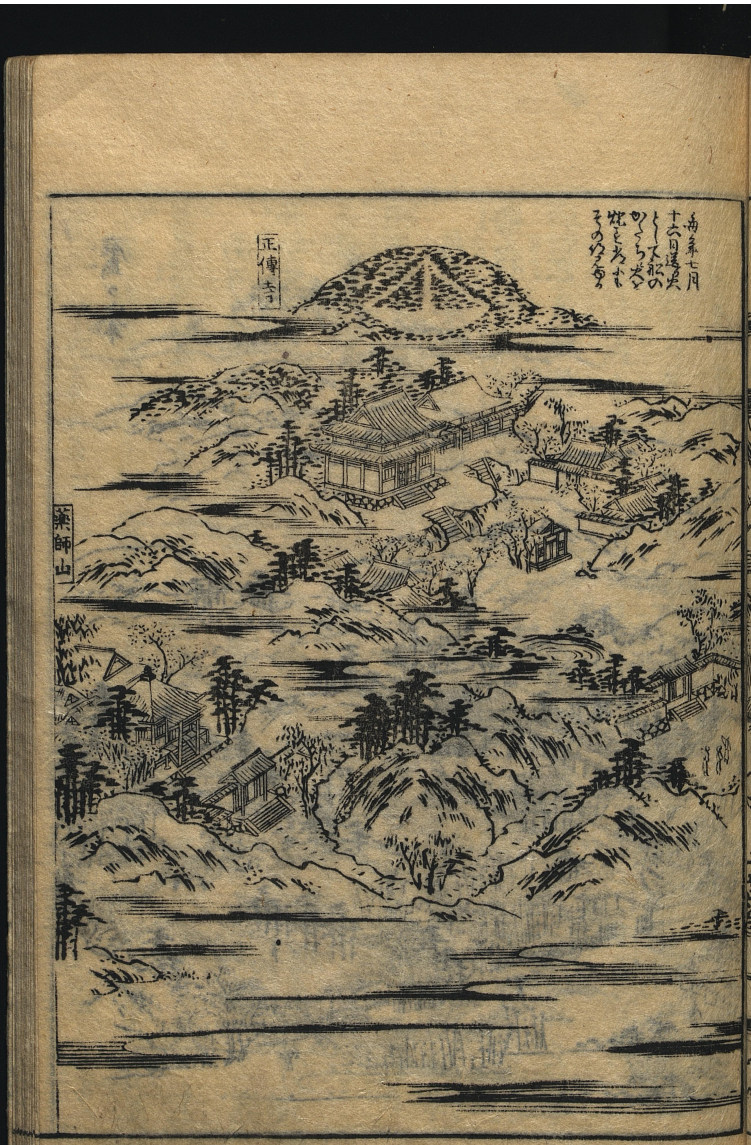
初名今 松尾 御田 ほりえ 祭りせ 祈せ 神 加茂幸平
十載 貴船川 ゐち 激く 岩波 ふり 激くく 秋の 散れ 椎 佐成
天本 秋風の 吹ふくと いふ本 紅ふ葉を ふりあげて 奉るふ 成助
梅取社 二柱の 里れ 小に 老松の 一乃名居 ゐり 具ゐくらくに ふげもれ
神代れむり 爺の神 本松 ふまくそ ゐち 祭りし 神くを
只酒石 い本船川の中にある 宇治橋姫 老松 へりそ ふふ 俤 里を 流しふり
磐石い本松くまの 落合川 ち 奉りて 壊ふあり

後拾遺 おなし式部 まの 保昌し ゐれくみふりふ 社にりそく 愛の 恋をそそ
後拾遺 おもふ人 涙竜の 賞ふ ふ ゐくし ふる ふくそふ 和泉式部

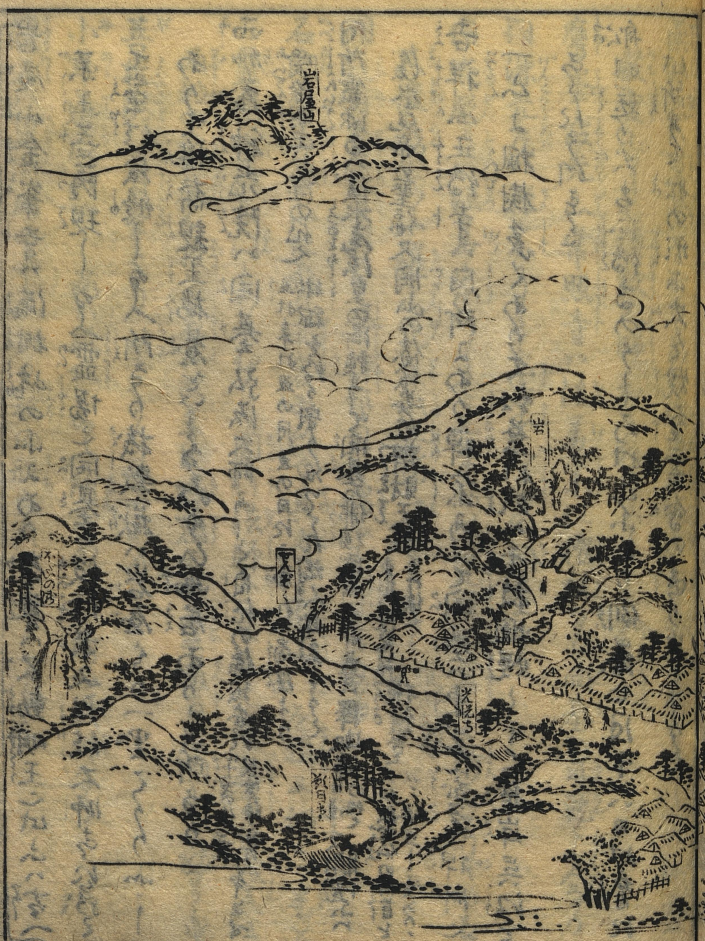
くそ 詠ふる ふ 御ふ ゐ中ふり 男子の 産ふく

奥ふ ふ おれりて 落ふ 落ぼ 御の 玉散ふ ふり ゐふ おりしそ 貴船明神
式部 そのち 巫を ゐくしほりつき 白ふり ふに 保昌 ふの ふにく 社の
本法に ふ ふくいふふり しに 巫ふる ふくゐふ ふにくしの ふと

ふへ式部ふふふち ふめく
ふよ 振神の ふふゐもふりや 月をふふそ 身ふるふりつき 和泉式部
とふふふる ふれ 保昌きもあと 具ふち は 優ふいやしくおく
別式部と ふいてふりる 紙流ふぬむすびしふふとふり
晴部ふい 老松ふ 紙いふり 日神 ふそ ふにふりまし はふくれ 世界 急く
くふやふふふる 紙園ふいふ
梅花白 ふふろ ふぐふぬふ園に 就れふそふそあふる 貴之
大悲ふいくくまれ 遠奥る ふ 花流ふ ふ 社 ふへ 別所 村ふふりて 観る 音ふり
平相国 清盛れいくめふしとふり


正傳寺
藥師山

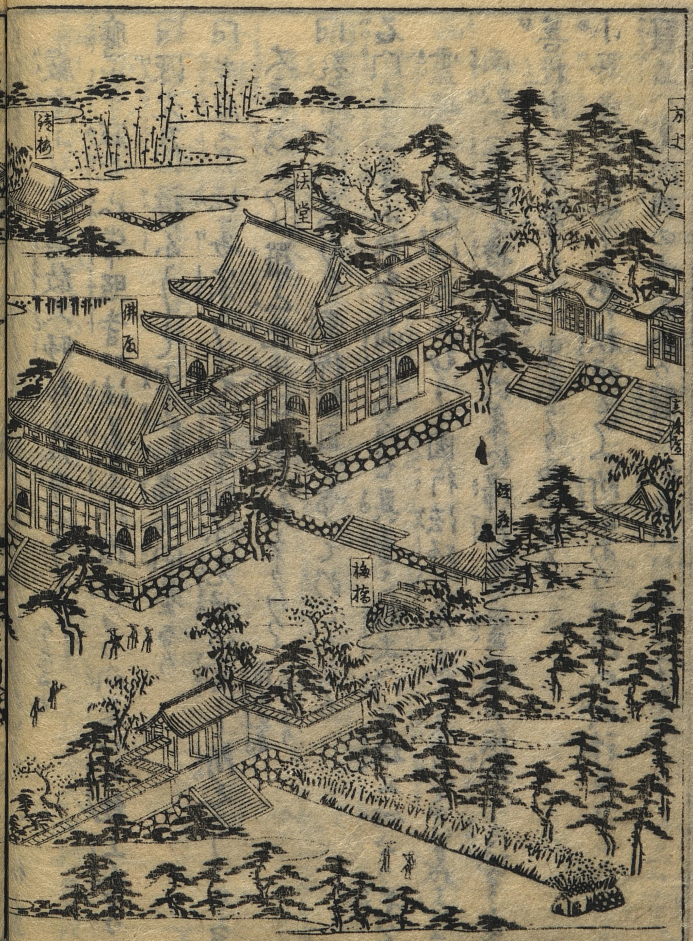

西加茂
泰源寺
神光院




鷹ノ峯

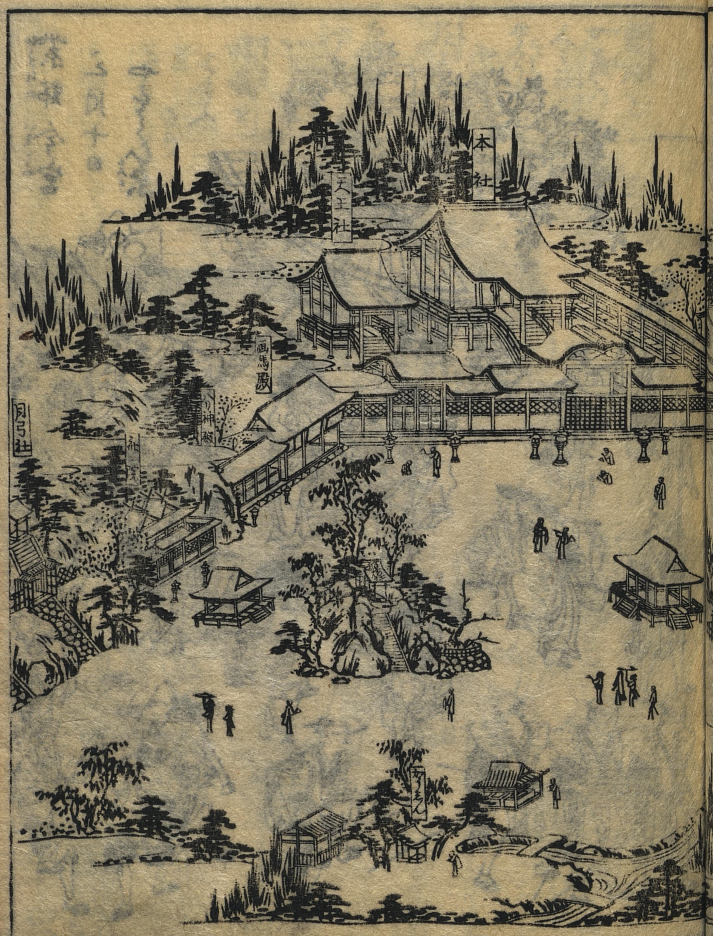
岩屋山金峯寺は滿樹峠の小ゝあり本尊は不動明王之ゟ此ゟは古へ
茶王菩薩現ゝ之霊場之開基は役行者之弘法大師ゟ於ゟ
て峯ゟ峯ゟ修ゝ之人所ゟ棧數嶽ゟ岩屋ゟ一里ゟ小ゝ
ありて惟喬親王捕蜚をいこゝみ之幽居ありゝ所ゟ
西ゟ蔵神光院は開基弘法大師みゝく自作の像波安(坐十三の像一尺
殺像師作)
愛染明王ゟ弘法の作之(遥れ手れ丑の月丑の日にゟみれ尚院ゟ
拝観をゆろ許り祝ぐ入禁制そろ)
同所霊源ゟは後水尾法皇の御額ゟて開基の佛頂國師之手蹟ゟ
後水尾帝の聖像又開山の像波安(辨財天社東福門院の守佛ゟる
撞木堂之仏鰐金仏の御首を
拝ゟ事ゟ一生之ゟ)
吉祥山正傳寺は同所ゟあり禅宗みゝて開基は東岩宏光禅師之
一ゟ之楓樹多くありて紅葉ゟれば千枝燦爛ゝゝて錦岸呉江を
ふくろうこと
船ゟ送ゟ火を焼ゟるのゟしろれゟあり例第七月十六日ゟ者に
山所みゝて船の於ゟ火を焼ゟ霊舎の送ゟ火ゟ之ゟ
薬師ゟい草堂をむそびて瑠璃光如来を安置たりみゝへ仏盛
巌重ゟゝて傳教大師ゟゝ之ゟ(今尼ゟる)
鷹ゟ峯寂光ゟ常照寺は法華宗ゟ檀林ゟり開基は日乾上人ゟり
日源光房は禄宗ゟゝて屯ゟ和尚の開基ゟり
日光院ゟは法華宗みゝて元本阿弥光悦の営ゝ所之ゟゝある
大虚庵ゟゝ羅ゟ先生ゟ菴の記をうけゝ(羅山文集)
日経堂ゟ奥ゟあり常行経日ゟ唱へてめざるなり
石門ゟある峯ゟにあり両岩ありて具ゟる数丈ゟ門を構ゟ似ゟ是と
霊巌寺は石門ゟゝむゝ園行法師入唐ゟそ青ゟる之義ゟゝ
両親之密教を授ゟそ和ゟ之年ゟ帰朝ゟそ霊巌ゟる処開ゝゝ之ゟ
基ゟ
菩提樹ゟい尊峯ゟり一里ゟり西ゟあり
小野道風れやゝ移ゟ枝垂ゟゝ所ゟあり山所の武神ゟり
冠石ゟ東河内の中ゟあり冠の形ゟれば名ゝゟる


大徳寺

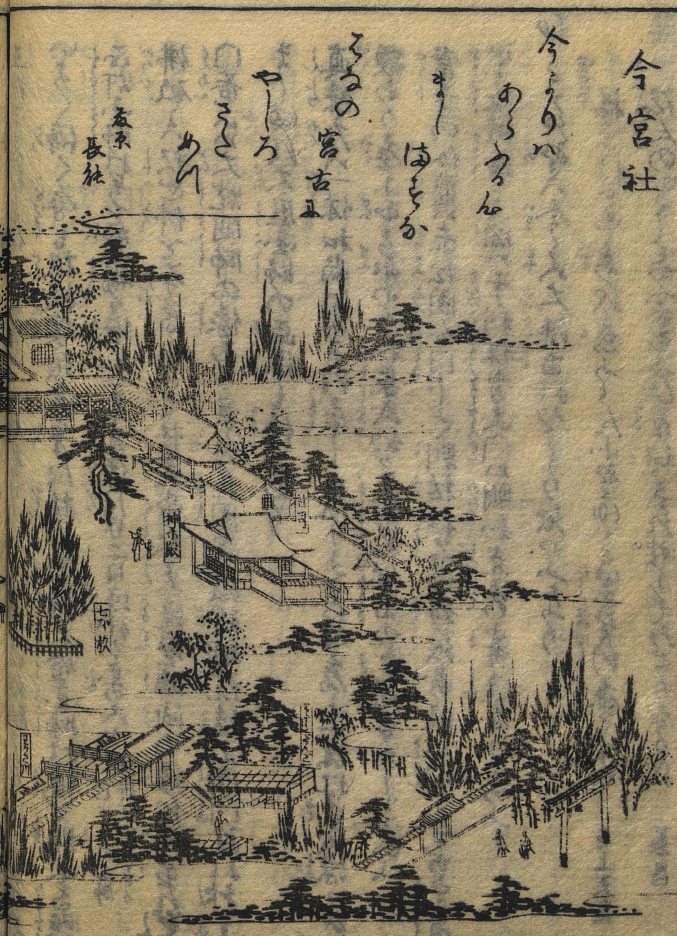

方丈
法堂
開山
梅檀

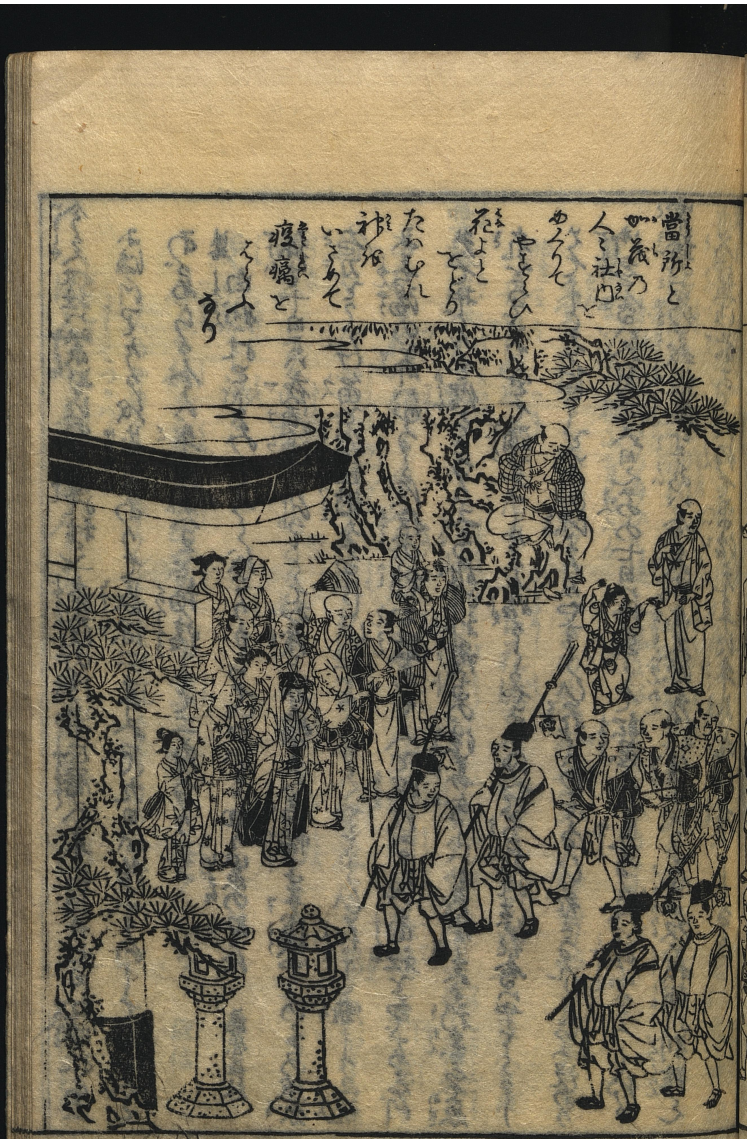
龍蜜ハ山大徳寺ハ今その西にあり開基ハ大燈国師と名ハ妙超と云ハ紀氏
をし播州揖西しゝ郡の人之父母ありて紀ハ之ハ云ハ此の紀世もれ
しゞある夜母ハ香に乃至ありて孕ミ給ふ産ハ正ありて生ハ
好り妙詔せしくいさゝ骨そび云ふ眼光ひやゝ異ありて十一歳之ハ学
山の戒信休師ふたり経書を渡九流之義百家の異道ハ之究めいまゝ繋を
もそゝぐ京師相模小ありしを後くの冬宿小参問して後建仁の
大燈国師ふ謁し悟道ハ一門子ありぬ大応ハ延慶元年十二月ハ辻化
ありて妙詔之洛ふ上り東山の雲石ハ閑居しけるハ夜の差に僧ハ入
来り出世ありしそかしくふく法ハ仏敵ハなくゞしく法ハ之ありう
ゞれしとうそさて又洗ハ之恵法師ハ具ハ儒者ハ人一志ふ禄宗ハ祖
らんいく紙朝廷ふ参し議論さらくみて法儒れのくハ尽ハ負ハも
ハ之ありし洗ハ之ふ入家者禄し大徳の方丈を建玄門菴と号ハあり開
山国師ハ泥洹ハ不思議与仏法對坐うく勅答せしくり後醍醐天皇にうう銘熱
王法不思議与仏法對坐うく勅答せしくり後醍醐天皇にうう銘熱
いよく深く尊も投機頌紙表学にし興禅大燈玉師ハ続ゞ賜ハ之ふ
正灯玉師ハ号ハ加ハ楊の延え二年丑備ハ二日迁化ハ年ハ之ハ十六 已上大灯玉師行状ニ委シ
仏敵ふ釈也御ハ年号ハ正和ハ延慶ハ応長ハ正和ハ文保ハ元応ハ元亨ハ正中ハ嘉暦ハ元徳ハ元弘ハ建武ハ延元ハ暦応ハ康永ハ貞和ハ観応ハ文和ハ延文ハ康安ハ貞治ハ応安ハ永和ハ康暦ハ永徳ハ至徳ハ嘉慶ハ康応ハ明徳ハ応永ハ正長ハ永享ハ文安ハ宝徳ハ享徳ハ康正ハ長禄ハ寛正ハ文正ハ応仁ハ文明ハ長享ハ延徳ハ明応ハ文亀ハ永正ハ大永ハ享禄ハ天文ハ弘治ハ永禄ハ元亀ハ天正ハ文禄ハ慶長ハ元和ハ寛永ハ正保ハ慶安ハ承応ハ明暦ハ万治ハ寛文ハ延宝ハ天和ハ貞享ハ元禄ハ宝永ハ正徳ハ享保ハ元文ハ寛保ハ延享ハ寛延ハ宝暦ハ明和ハ安永ハ天明ハ寛政ハ享和ハ文化ハ文政ハ天保ハ弘化ハ嘉永ハ安政ハ万延ハ文久ハ元治ハ慶応ハ明治ハ大正ハ昭和ハ今之ハ大徳寺ハ門ハ
門菴ふハ大燈国師の像ありハ真外花園院後醍醐院後土御門院ハ
ゞ御ハ大燈国師の画像も備ふあり
真珠庵ハ一休和尚ハ禾ふ住居しのひ之ハ塔所と一休ハ号ハ狂雲
額あり庵ふ至ふ和泉式部ハ文おハ保昌の宅ハありしくいく
當寺の仏殿ハ赤松圓心ハ則祐ハ建ハ之ハ門ハ五ハ間ハ三ハ間ハ
家長候造しハ千利休方丈ハ明和ハ寄進ありしハ
むくさゝれ野ハ今之大徳寺ハ

法人のひとしてのふるひまむくさゝれ野ハ



今宮社





紫野今宮
三月十日
やすらひ祭

當所と
如義乃
人と社内と
ゆくりて
やすらひ
花よと
とどり
たはむれ
神の
いさめて
疫癘と
とらへ
すり



今夏の社は紫野にあり疫の神を一条院の御宇正暦五年六月廿七日祝岡の上に御門にたゞる所告愛ありて長保二年五月九日此所にうつして今夏とあがめらる今は牛頭天王を勧請して二座なり

藤原長能

白妙のとよみてくらくなりもちていはひそ初る紫の野に

弥生十日には夜須禮まつりとて加茂上野の里人烏帽子赤襖ゆゑの袋を左刀をうたげ笛を吹鉦鼓をあらし此社をめくりてやとらひ花よと囃しける一説に長陽の節はなるゝ疫の神分散志て人を悩ずれば西社をあがめ志ゆゑ先ぞ神ぐらを僧をとなり又高雄の神護寺の法華会にはかゝ今夏の祈禱志て悪気をなぐめんとて踊をすしたる始なりやさるゆゑに高雄の法花会はやとらうしまたよしたやせしとの門の法よりやすらひ花よかをるひ花よなんともいふ説あり御忠会は五月十五日之前の七日は御出とて船岡山の東なる御旅所へうつし給ふ

常盤の古詞義経誕生所は今夏の東大源房の侍にあり左馬頭義朝の別館之

船岡山は紫野の西にあり舟の形に似たれば名とせり應仁年中此山に紫野の人細川山名の両陣数度合戦ありしを

承融院位さりあひて後亦是に子日しあひたるに

新今まいりて朝にあり

春なりむかしの人をいふにはきのふの野べにみゆれせなしや

二条右大臣

拾遺

舟岡の野中にたてる女郎花渡さぬ人はあらしとそいふ

後人会所

雲林院は紫野にあり淳和帝の離宮なり仁明天皇の御子常康親王これを僧人領しあふ其後天暦帝の御時僧正遍照を別當り補せられ堂塔叡慮に建られたり今は雲林院と唱て此ならの卿名とする旧詞繁にのこるむかしは掛の名所なれど和奇にも雲の林と謝る

今ぞ知る雲の林の星はたゞ空にみぐるゝ星にあり

経信

うへの御のことも花ぞんとて雲林院にまゐりたるに

よそてつかひたる

浦山し雲の宮人うちむれてをのかあらや花をとるらん

良暹法師


丹岡山
雲林院
蓮臺寺
小北山
神子町



七の社い舟岡の南ふあり當社い涼殿の后ゝ祈願ふくらこと多し
のまゝ日明社ゝ勅書ふうしゆをそ其後伊勢石清水攝若かゝ
松尾平野ゝ祇係をり七ゝ社と号をゝ一説ふ法ゝ此ゝ七野あり
四社小社柏野蓮臺社上社平社多の中ふあるの神ゐゝ
おのゝ人ゝ名を諸預あるそのゝ社おゝ砂を積そ之をゝ此ゝ状ゝ
うゝをおり春日ゝ勅向の標ゝ木もゝ此ゝまあり
今宮ゝ門旅所ゝ雲林院の巽ふあり毎年五月七日本社ゝ神輿
遷座あるゝゝを茶店多つゝゝ芝居ゝ設下ゆ本弓楯弓乃者
絶人ゝ十八日神輿あゝひゝて祇ゝおるゝいくん方ゝ
上品蓮臺寺ゝ千本通の小頭ふあり開基聖徳をみゐり其後
僧正観空住職ゝて其言家ゝあゝくゝむ本尊地藏菩薩ゝ
聖徳太子の御作ゐり又弘法大師自作ゝ像ゝ安亟ゝ宮ゝ
上皇ゝ所ゝ
元亨釋書

金山天王寺ゝ北野社東の門通ふあり天台宗如意輪觀音
ゝ聖徳太子の作ゐり 洛陽觀音巡禮の一番ゝ所
像ゝ安亟ゝ左ゐ堂の額ゝ釋迦如来轉輪聖皇所上宮太子淨跡
中ゝゝ書ゝゝ小松院の扁額ゐり
紅梅殿ゝ天王寺のおゝあり多ゐ所菅神の愛ゝの人飛梅ゝ霊神ゐり
清水院ゝ七本松通一条の北ふあり真言宗ふゝて聖観音地藏菩薩
の二尊ゝ安亟ゝ原を京極通春日ふあり今清和院御門ゝ號と
明暦年中ゝ此ゝ地ゝ移を
真足山立本寺ゝ通正親町ゝ西ふあり法華宗ふゝて日像上人ゝ祖師
基ゝゝ祖師堂ゝ安亟ゝ日蓮上人の像を曽影ゝゝ初ゝ松永久秀
ゝ男右馬門佐久通ゐ侍ゝ佐ゝ本陳次ゝ人者出陣のゝ中ふ據ゐて
曽ゝ寄ひゝ中ゝ藏む盗人ゝ入集んとをるゝ盤石ゝ如ゝゝ大ゝ喧ゝ慶
次ふ懺悔ゝて當宗門ゝ入ゝ尊像ゐり仕ゝ終ゝ遂ゐる



千本焔魔堂は蓮臺寺の南にあり引接寺と号に宗旨は真言之
本尊は焔魔大王にして法橋定朝の作當寺は開基は定覚
律師と鐘は銘にあり大念佛は文永年中に如輪上人なし
めはふ此寺は横に普賢像といふあり弥生の比花盛りをまちて
狂云をなしむる之一説にむかし望乃窟は日藏上人冥土より
いたりはへば帝いまして上人に向ひて宣ふやうは我娑婆の業
因深ふして今流ましたらしうをなたり汝娑婆に帰ゆきて家
為に千本の卒土婆娑供養をべしと一首の奇を詠ぬ
いふまたく捺落の座に入ぬまは利利も首陀もかなさりけり
日藏肝深袖にあまり悲傷るといふは夏明り此旨を奏聞して舟墨に
千本の卒土婆娑建當寺を造立しいかしき御ゆきつゝひ供養しけるとこ
大報恩寺は引接寺の西にあり千本釈迦堂といふ本尊釈迦佛は安阿弥
の作之宗旨真言にして開基求法上人之 其二月は老教授の法會あり
世人尚ちをさしてイキヤウといふ

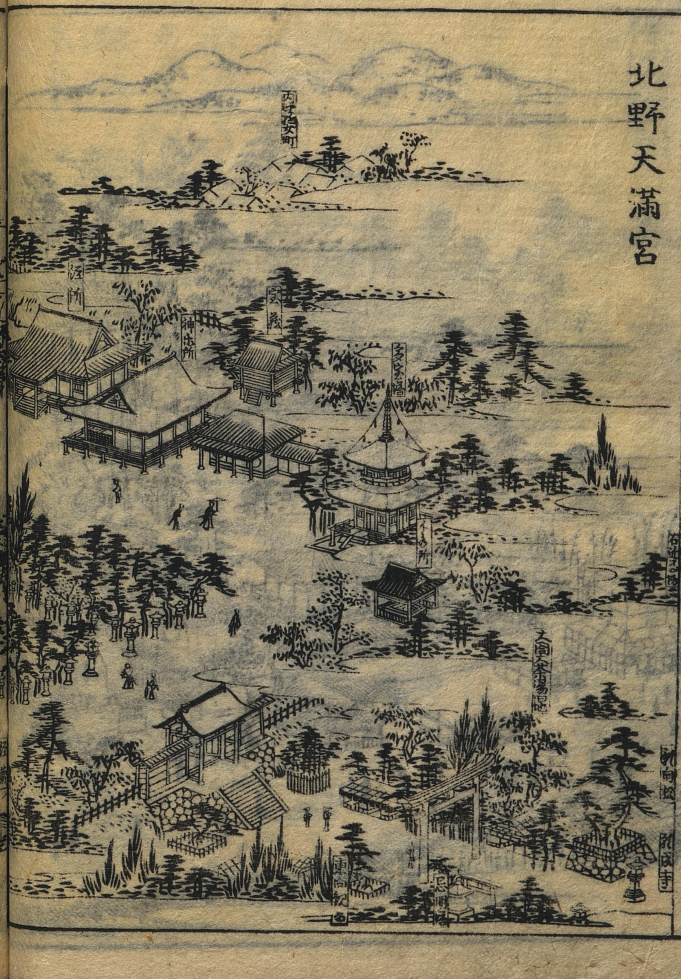




轉法輪寺

北野天滿宮





小野は王城の小西の方なり天暦年中に聖廟ゆゑ所し港とあり文社といふ
ることしなり諸来る人陰晴を思ふ所に行はるゝ神威ことにいちじるし
小野の文にしみてなりけり
後後撰 くもり人きこえ世の末ゆゑてらしてやゆく人神は天降りん 惠園
白川院の御ことにあらさるかゝれるにより御ことをくゝ心能ゆゑ
侍ける時唐鏡ゆゑ小野の宮なるとそ思ふこのうしにかきける
後古今 身をはこそ照しおさめ国に鏡たる侍もくもりあらはは 敬輔
天満天神宮 中殿 菅丞相 中将殿 東間 菅宮嫡子 吉祥女 西間 右大臣小方
菅家の侍紀はあまねく世の人乃知るなれば委記さば祖は天穂日命
の苗裔にして歴世とゞしく思若公の御子右大臣忠は道真と申なり
いとけなくして頴悟をくれ貞観四年に文章生に補し得業生となり
同しく十二年に對策及第し十八年に侍従にすゝ元慶六年渤海国
の使者鴻臚館にあつかり右大臣の詩書を見て称しけり風製白楽天に
似たりけるとかや仁和年中に讃岐国守に任し寛原五年に名議となり六年
九月に右祥院にて五十賀を修しけり九年に中納言を屋ぐ大納言にのぼり
大将ゆゑ昌泰二年二月右大臣にすゝみ右大将なりけれ此時左大臣左大将兼
朝臣時まとりに上皇の勅をうけ天子を補佐しなりけれしめ帝十四にして
猶も聰明にて位に御ゆゑ一日朱雀院 上皇御所 に行幸ありし上皇帝に諸
ゆひけるは右大臣年なく才賢しなる任用せられ居しとゝ右大臣にて辞し
さまふ左大臣大にうらゝなり妹の皇后なりけるゆゑにひかどく誤せしより
遂に昌泰四年正月廿日大宰権師に左遷しまふおはしけり三ヶ世をすぐ延喜
三年二月廿五日配所にて薨じぬひ安楽なる御年六十九歳其後
菅霊にてさまくれるありしかば延長元年に左遷の宣旨をとりて元の官に
かへし正二位を贈ゆゑ天慶三年七月菅宮右京七条の文子といふものに
御託宣ありて小野右近の馬場に掛とのゆゑ又近江国比良社の祢宜良種に
託し給ひけるは大内の小野に一夜に子本の社をはせん社をば天満天神と崇ぶ

とうりきに於て朝日寺の僧最珍右京れ文子等と力を合せ霊祠を修り
天徳三年右大臣師輔なれも神威をうやまひ巍々なる大度をあらためいと
なるゝ事ハ今れ小野宮足之一条院の御宇正暦四年八月に勅使を掌府れ安
東寺に注がり大政右大臣正一位を贈りまへり末社に船の宮といふハ彼一夜乃
松なり此祠に神秘れ注ゝ人ありとかや 已上 伝家
二月廿五日ハ菜種の御供れ御神事あり七月六日ハ御手ゑことを糸詣人囚
殿に入神寶虫干あり九月四日当社の祭礼なり
東向観音ハ忌明塔れ西側にあり本尊ハ桜樹の二樹を以て菅神御ゑから
きざませ給ふ十一面観世音なり
預成就寺ハ新向松の坤にあり本尊ハ釈迦多寶佛れ二尊なり此寺を
足利将軍義満公山名氏清と内野に於て合戦あり義満討猿ゑひて
氏清が首を得たり氏清ハ無双の勇士なるゆへ其追悼れためとて道場を
建一万部の御典を横補しまひたり故に延王堂ともいふ

平野社ハ小野より乾にあり祭まる神四座なり源平高階大江此四姓乃
氏神なり 第一今木神 日本武尊 源氏 第二久度神 仲哀天皇 平氏 第三古開神 仁徳天皇 高階氏
第四比咩神 天照太神 大江氏
縣社ハ天穂日命 中原清原 菅原秋篠 四姓れ氏神なり屋しろハ桓武天皇延暦年
中に建立せり御くらゐハ正一位清和天皇貞観六年七月十日にさげけ
なれ例祭ハ九月上の申れ日なり
拾遺 ひさしげきひられて京れあや松よされ紫に立ぬるなく 元輔
續今 難波津に冬さりせしむなれや平野に松にふれる白雪 家隆
新千載 ちりやふる平野れ松もたふさきハ花候雲のためしなるらめ
紙屋川といふハむかし此川のほとりにて紙をすれ高ふなり
大嘗会の御とれ慧見川の稜とハ平野の橋よりおし少そ行ゝ之慧見
川ハ紙屋川の別名なり又仁和川ともいふむかしハ仁和寺廣大にして東ハ
紙屋川のたしまぞ寺院にまなく造りつゞけ侍るよしいひ傳ふ




平野社
新千載
小北山

金閣寺



金閣寺は東野の乾衣笠山のぬもゆきにあり禅宗にして鹿苑寺ともいふ
應永四年に將軍義滿公鹿苑院殿也高閣をたてゝ花苑の後にくし金鉑をかけて
一面に嵌ひ閣の前に池廣こして九山八海となりけり傳ふる壽石さゝあり
金閣三重にして第一を法水院といふ孫陀の三尊菩薩國師の像鹿園院殿道義の像あり第二の潮
音洞といふ自然木の觀音四天王の安を第三の究竟頂といふ後小松院勅額あり板敷三間四面一枚板四壁の板ことゝく金鉑を押す
むかしは境地をなりぐ廣りしなり熱門は紙屋川の西今の地藏院の傍に
あり礎今にあり御所を芳漣といふ金閣の廻りこゝ池にして芳漣の名に
反橋の架を池の南に拱小橋あり巽に小御堂あり東に地藏堂枚体安に其
地を地藏本といふ其小に大塔あり本尊弥勒方丈の小に二峯あり縱目峯
と號しぬ小方の壽觀此地にをくれたるはなし
鏡石は金閣寺の小紙屋川の上にあり石面の晶のごとく新を迁すの
ものにて名とせり
本尊鏡石ようじ出れ家忌髮やかてりしらん鏡の新につまり白雪　貫之

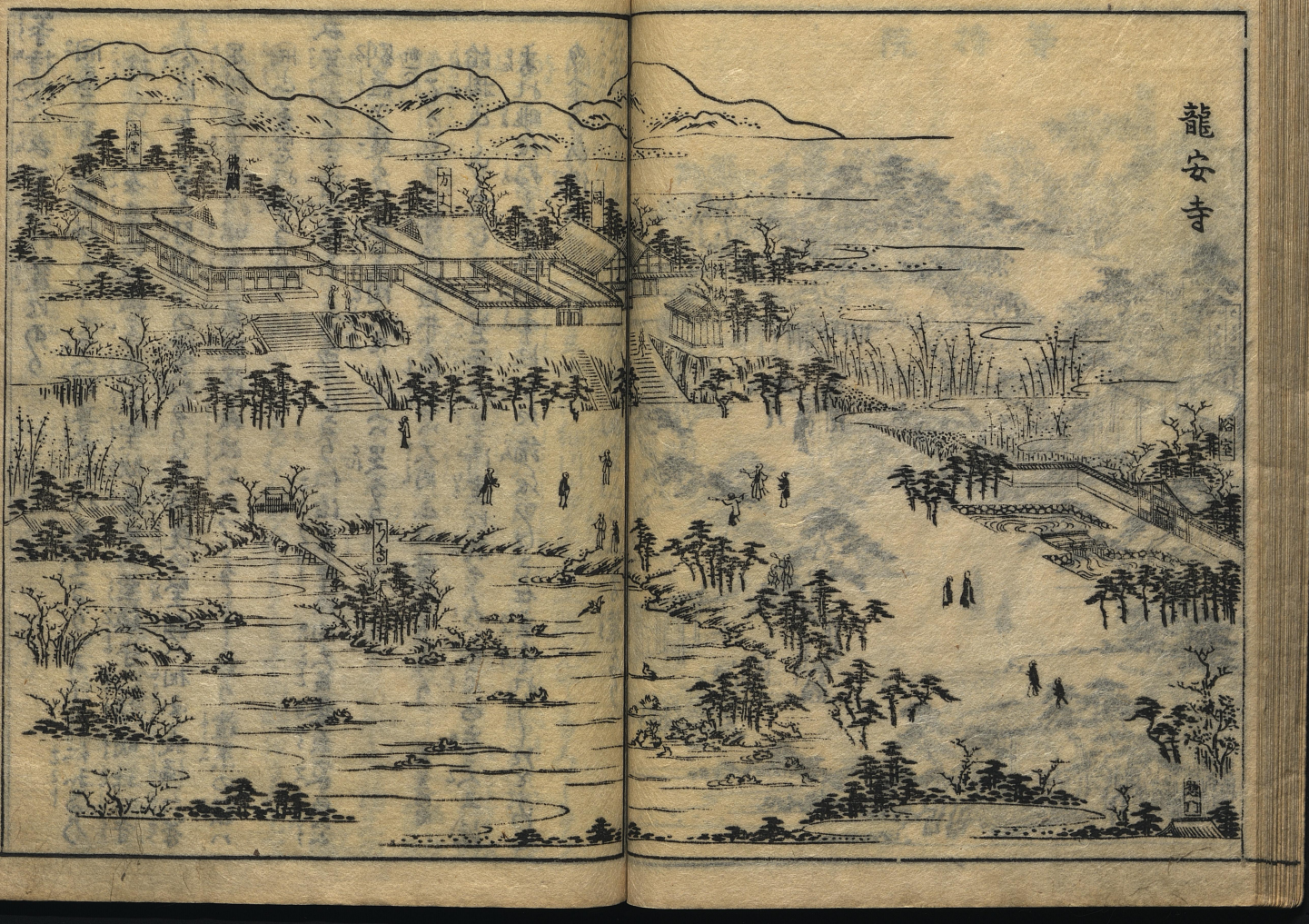
鏡石は牠の新よくうつりて
あきらかなる怪石なりむかし
唐土に仙人鏡といふ石あり
形廣大にして石面皎こゝり
よく人の五臟のうつりを疾
あるとれは則其形のあら
はまとゝぞあれらのたぐひ
とやいつぞき



等持院






龍安寺
浴室
勅門

等持院は衣笠山の麓にあり
開基は夢窓國師にして足利尊氏公の建立なりいにしへは仁和寺乃
一院といへり本尊の地藏菩薩大聖歡喜天の堂鎮守六請明神等
今に在ることなむかしの遺跡なり等持院の竪額は相國義滿公の筆
足利家累代の昭堂は慈照院義政公のことなしあり證果の額は
開山夢窓の筆なり
衣笠山は等持院のうしろなる山なり仁治年中に内大臣藤原家良公
別莊を建ぬ衣笠内大臣といへは是なり
新六帖
ちるあるは郡のいぬ井家宿は大内山の麓なりけり　衣笠内府
絹掛山といへはむかし寛平法皇御室に於て御五月の祭天王源
雪の眺ぬるまひ此筆に自に絹ぬかけさせ玄冬のけしきをうつし
ぬるといひ傳へ
小松内大臣重盛小山草狩の地は衣笠山の東なり麓なり

大宅山鹿安寺は等持院の西にあり
開基は義天和尚文明年中に細川右京大夫勝元いとなみしなり
初は左大臣實能公の山莊なり漢大寺公有公の代細川勝元此地を乞
請られしなり本尊は釈迦佛大元達磨の像は東西の壇にあり惠光禅師
像細川勝元の像は安に堂の円天好の画は東福寺兆殿司の筆と　蝸殼　迦陵頻
方丈は勝元の館夷院をひていとなる庭前の築山池の風色は勝元の
物数寄なり此地小は衣笠の山は霞南は遥に圖て一陽來復より温
氣めぐりも早し池の面には水鳥むれあつまり玄冬の眺ぬるは是を
鹿安寺の鷲峯とて名に高し
真如寺は衣笠の巽松原村の西にあり
開基は夢窓國師本尊は釈迦佛仏光國師像　壇下に安に　達磨佛國
夢窓の二親　東の招壇に安に　初は無著尾といへ人ことに席を結て正脈席
といへ康永年中に高武藏守師逮修造をといへり




妙心寺

雙岡



新撰古

松のこゑ
ならひれ
思の
纂る
新撰乃
月も
新もらぬ
まそ

入道一品



正法山妙心寺ハ諸安寺の南木辻の西にあり開山ハ関山国師信州の人なり
一とせ洛に来り大灯国師にしたりて衣鉢閣により一夕関山竜門に関の字を
會得を大炷まゝ竜門大師来れると覆ひて関山と號を後醍醐帝乃
同に答なり志かも尊旨にかなふ其後花園法皇禅苑をとて関山を住職と
なしぬ則法皇も方丈の後に一院をいとなみ住せぬ其後玉風院といふ
佛殿の本尊釋迦佛左迦葉右阿難達磨臨濟脇壇の左右神牌花園院後花園院後土御門院後柏原院後奈良院
法堂ハ北にあり経藏ハ東にあり玉風院ハ正面に唐門あり額ハ法皇ハ
御震筆なり

妙心寺十境 和漢禅剣次第出

萬歳山 仁和寺山　百花洞 玉風院内　高安灘
麒麟閣 玉風院内　宇多川 妙心寺の東流　齊宮杜 東外川端
度香橋 南門前　鶏足鎮 北山　南華塔 東寺塔
舊藉田 妙心寺の内

僕図ハ妙心寺の西にあり一二三図相並なり

風 色くにならびの思の神ぬ柔秋れさらぬくゆきくれもなり 後宇多院
文 はくじ咲双れ思のまゝりけにぬすじ夕日乃色をうつろふ 為相
同 鳴はぐく塚のもろ聲ひまもなしならびの思れ夜の日迄 為家

兼好法師の四行二の図れ西の麓にあり近世図の東長泉なにうつをなり
ならびれ思に年月所をもふけくがたらに桜ぬ柚さをとて
うえぬれし花とならびれ思のべに衰いくよれてうれをくらん 兼好

法金剛院ならびの丘にありむかし清原真人友野れ別荘之真子太夫
游雄公もならびれ丘のうへに山荘ぬいとなうて後寺となして雙丘寺
となづく已に荒癈に及ぶの所大治年中に待賢門院再興ありて號を
法金剛院とあらたむ宗旨ハ四宗兼学中真ハ園光上人なり
本尊ハ阿弥陀如来 土大の像春日作とそ

西光房ハ双れ池の上にあり浄土宗にして向阿上人開基なり


御室御門前之図

御室仁和寺（おむろにんなじ）





御室仁和寺は真言蜜宗の具地なりけじめ光孝天皇の御願として仁和
四年八月にいとなみ給へ代々法親王の御法勢にて御門跡と称し
給へこと此寺にはじまりけるとかや御室と号せるは宇多天皇御
出家の後延喜元年十二月に御室を此所に建させ給へ又永平乃
御門も天暦六年御出家なりて此所にうつりまゐり
金堂の本尊は阿弥陀佛観音勢至脇士とし給へ観音院には子手観
世音とせ給へ祖師堂は弘法大師自作の像脇壇には寛平法皇の
震影殿安徳天皇塔九所明神十二権現経蔵閼伽井下京の立石は
花木甲斐が筆とかや其當山は佳境にしてむかしより携なし山嶽
近々にはあらしはけしく枝葉をはまてく樹をうゝ沢屈曲
なめくるが如弥生の御親供は猶更花の盛には勅鄙の光儀を弟
ひ幕引き人虚松が酒に如し李白が恨は長縄を以て西花の白日を繋る故
鳴澗は仁和寺の西にあり此所は砥石の名産なり

山家

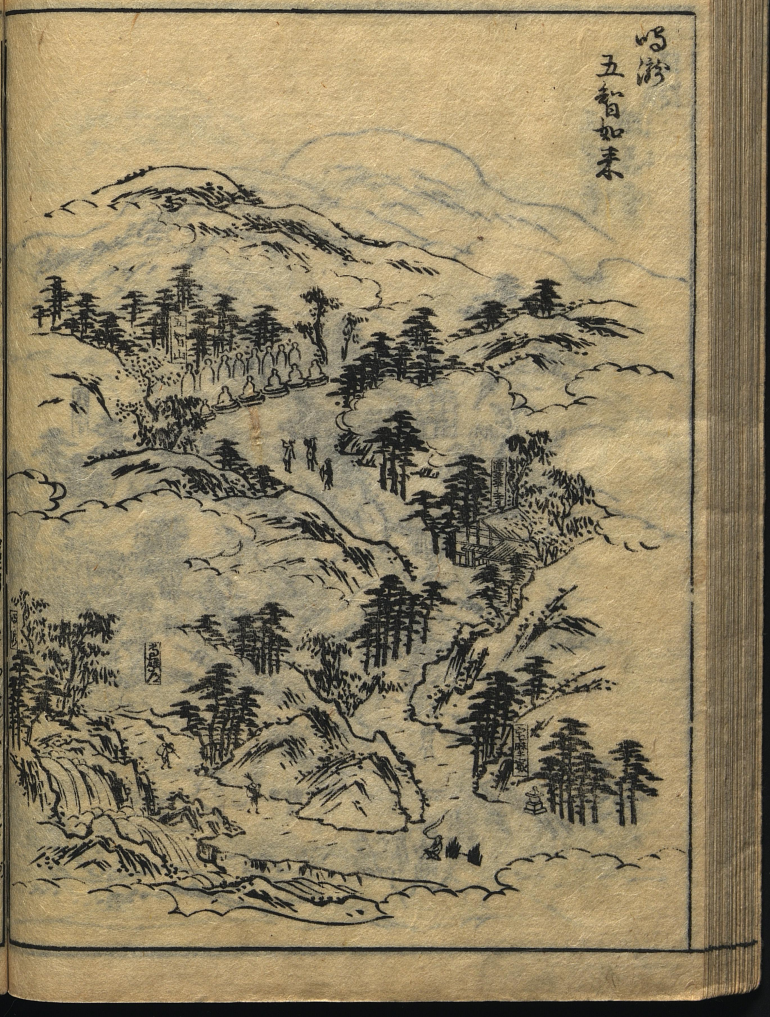
志ぞしさそ人めつてみにせられけれそれは泪やなり澗乃川　西行

妙光寺は鳴澗の里の北にあり神は内大臣藤師継の長男右少将忠年　初名妙光
追福のため北山の別業を寺となし妙光禅寺と号を開基は法燈
国師なり本尊は釋迦佛を安き寶陀閣の額は本房和尚の筆之紫金
基の旧地はうしろの山上に造る印金堂は堂内の四方頭布金を押く
當所の荘観さくにとくまり
泉谷の法藏寺は黄檗宗派にして百拙和尚の開基なり同所西安寺と
いへは浄土宗にて本尊阿弥陀如来は恵心僧都の作りなへなり
五菱山には般若寺あり開基は観賢僧正本願は大江玉渕朝臣なり
宗旨は真言古義にして本尊は文殊菩薩阿弥陀堂には弥陀観音
勢至の三尊とせ給へ観賢僧正の座禅石は北の方なる山にあり閼伽井は
堂のうしろにあり


妙光寺
泉谷西寺
法華寺





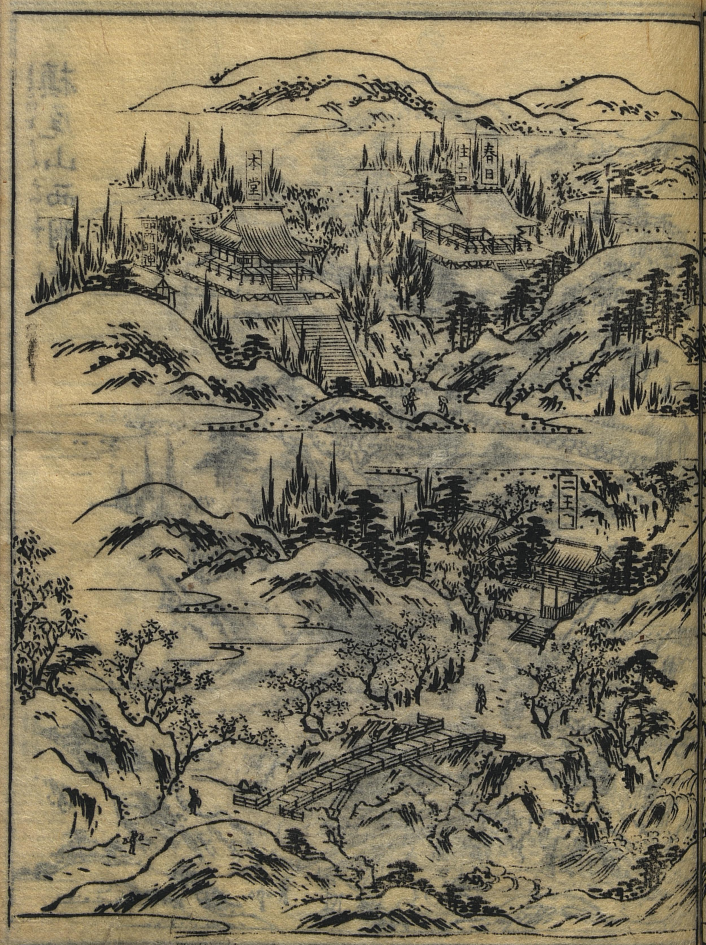


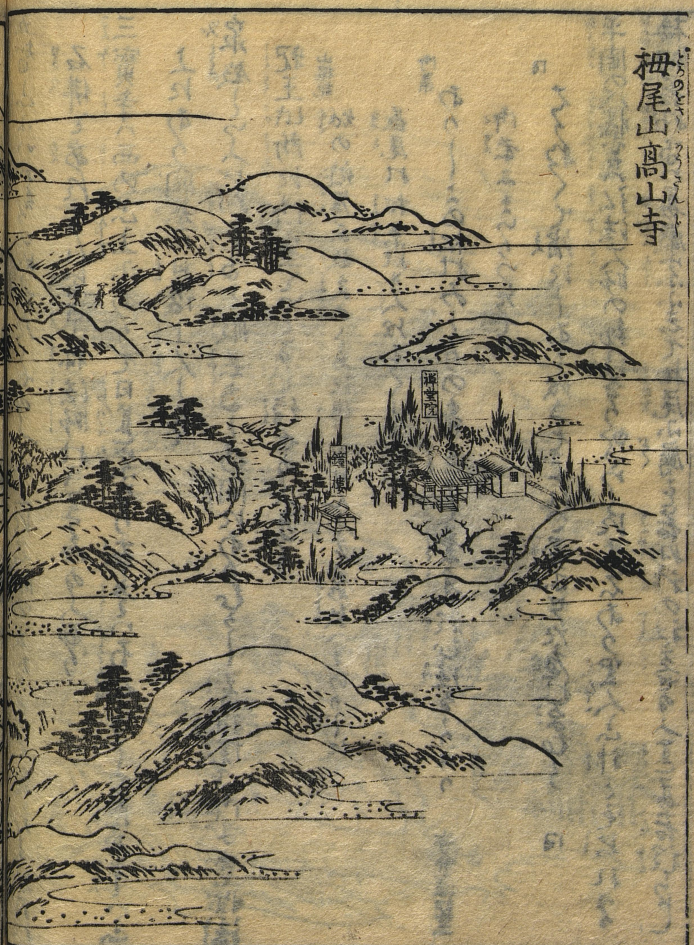
鳴瀧

五智如来

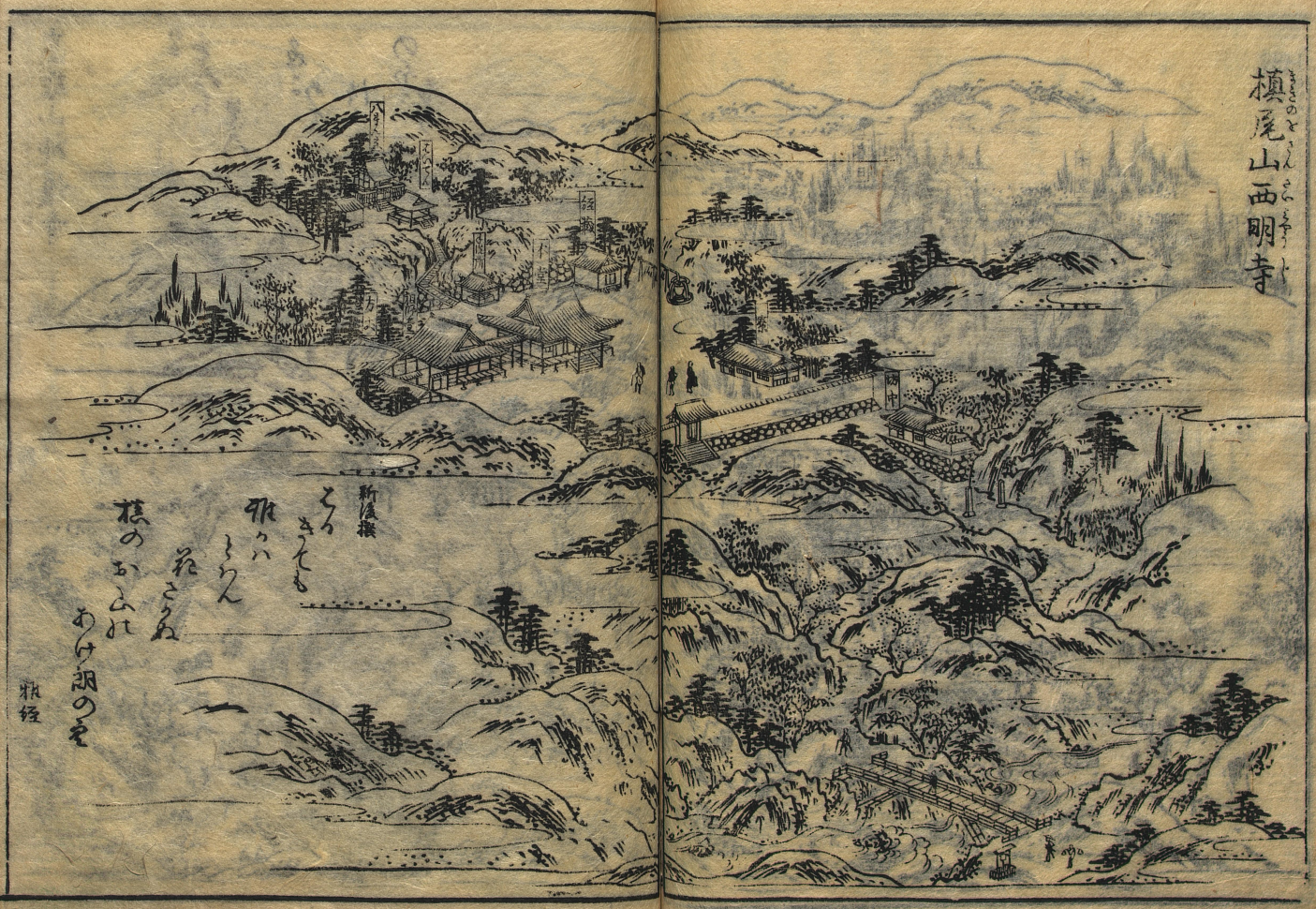
五智山ハ五智の如来たゝせの山上に石脈の五智等不動観音地蔵の
石佛をあらはされ皆単称法師のきこゑみのふあり
三寶寺ハ西の山上にありて日蓮宗なり本堂ハ南向にして釋迦堂ハ山
上にあり開基ハ日護上人とぞ
泉殿といふハ妙光寺と般若寺との間にありむかし多羽院の御子覺性法
親王此所に御室をいとなミ住せのふなり
山槐記 妙の彼岸ハ故文のために佛ゐるせんとて泉殿へまいりしに
長尾の松原のまへ成をくとて
御集 ありしよの松のみとりの春色まで憂身ハ和む陰なりけり 寺覺法親王
御前にまいりつゝ
同 たゞ形くて消にしあと成きて見れハ事不せ庭の草むら 同
平岡の八幡宮ハ弘法大師の勅請なりかたらに大石あり里人山神とそ出れる
梅畑若妙寺ハ長厳宗にして梅尾に屬す若妙神の社立せのふ是長谷祥ちはし

栂尾山高山寺





槇尾山西明寺






高雄山神護寺

梅尾山高山寺は華厳宗にして本尊は釈迦如来明恵上人は開基と紀州の田部の人なり九歳の時高雄山に上ぬ後ひ倶舎頌をよみ密家の實にきく雜華の景雅にならひ又文殊師利に帰し日に九字咒を持て十六歳にて利遊東大寺の戒壇に於て受具し興然阿闍梨にしたがひ兩部の密法をうけ夫より梅尾に經賢首宗をとるゝ又和尚の所にも公深く自遣心集と云ふを書ふを集む勅勅撰にも上人の所あまた入侍ぬ寛喜四年正月十五日寂に

拾尾山平等院は直言律にして開基は智泉法師なり本尊は釈迦如来明恵上人の作り玉ふ子を親書は聖徳太子の御作とぞ申へし

勅撰 そうきそ雅かは問ん花さかぬまゝのあふ山のかけ不れくる雲 雅経

高雄山神護寺は光仁帝の御宇和氣の清麿奏聞し建立なりしなり初は神願寺と號しぬ淳和帝御宇天長二年に空海に賜る神護寺祚言寺とあらため号に其比詔を下して金剛定寺の額を空海和尚に出しめんと勅使を立せぬひけるありしに又月雨にて清瀧川の水増りて高雄山にはゆきて止まれる勅使則川のかとりにたゞすみ玉ひ案じ煩ひおひけるを空海ありしめして筆に墨を始くませ持たる額に向ふて夫なりに墨旁れたるぬく飛で額の面に忽ち金剛定寺の四字現れる 大師行状記意をとる 額書石 石面に窪あり硯石に楼門の形にあり

金堂は本尊薬師如来講堂は又大なるとも弘法大師の作之楼門乃額は仁和寺光信法親王の御筆納涼坊には弘法の儀を安に文光上人の画像もあり鐘楼は金堂の良にありて鐘は銘は菅原足若卿席の詞は橘廣相筆者は菅原敏行なり是を世に三絶と號せ本朝の名器りしてまたなきものなしは幡文は経藏の巽にあり護法のやしろは和氣清麿の霊をまつりしとなり

此所はむかしはりの名所にて奥の地蔵院より下なる溪をとるかにはんぢ立田の秋の色をひ所にかけろ紅に堂の名日やとあらしに見たるなし紅葉をさらさらと詠れんもおしやられ停車坐看楓林晩とは杜牧が詞なり

古今遷建曰帝都天子之居天子以
四海爲家豈有常處哉惟其所在即
以爲都都者人之所會云爾以衆
大而言謂之京都周公相成王都洛
邑諸侯藩屏四方朝明堂後漢李唐
亦都洛陽倣

本朝聖主之例以京師稱洛陽歟抑
平安者天下之中而有德無窮之都也從
長岡之遷都已來歷千載而賢聖在
位景星見於天由是庶民浴泰平之化
時遍覽四方山川之勝裁配畫工信繁
令摸之還尋昔人之紆蹟詳記其由緣
全之名曰都名所圖會嗚呼聆左思

之博才蜀都賦歷年所況予撰不涉年
寡聞淺識伊雪其耻後君子正遺漏
俟澡洗而已季秋十三夜於斑竹亭書
旹安永九年也

選者　平安　秋里湘夕

畫工　浪花　春朝齋竹原信繁

彫工　京師　永島六右衛門　山本長左衛門　伊澤又治郎

同　浪花　藤江喜平治　藤木金兵衛　坂本新輔　山本清右衛門

安永九年子中秋新板
天明六年午初春再板

浪花書林　心斎橋通唐物町南之入　河内屋太助梓